

総合計画審議会 第1回社会基盤専門委員会

- 日 時 令和5年1月27日(金) 午後2時～3時50分
- 場 所 上下水道部 2階 大会議室
- 出席者 別紙委員名簿のとおり(全員出席)
- 傍聴者 なし
- 協議題等
 - 1 委員長選出 高谷時彦委員を委員長に選任
 - 2 委員長職務代理者の指名 斎藤美恵委員を職務代理者に指名
 - 3 説明 事務局から説明(質疑なし)
 - (1) 第2次鶴岡市総合計画基本計画の中間見直しの進め方について
 - (2) 第2次鶴岡市総合計画基本計画の社会基盤分野の評価・検証について
 - 4 協議
 - (1) 後期基本計画策定において重視すべき点について
→主な意見は下記のとおり
 - (2) その他 (特になし)

○ 主な意見

【委員】

- ・鶴岡の町があまりにも廃り過ぎている
- ・富山市は、コンパクトシティで路面電車が走っていて老人の方から若い人まで生活しやすい。
- ・鶴岡市は交流する場所もなく、自分たちが小さい頃と違い今の子たちはオンラインゲームをして、公園で遊ぶ子が少なくなっている。また、公園で事故があると市に責任が及ぶため公園の遊具も少なくなっている。
- ・鶴岡市は景観計画等、高さ制限があり高さのあるマンション等も建築できない。
- ・70歳以上で貯蓄があっても、鶴岡(旧鶴岡の街中)に老人ホームやマンションなどの住環境がないため、家を断捨離してまで市街地に入ってこようと思わないといった話をきいたことがある。
- ・昭和通り、銀座通り、駅前通り全てシャッター街になっている。
- ・県外からの来訪者が鶴岡は食べ物おいしいといっているが、その魅力の発信ももう少ししていかないと駄目。(寿司も東京で食べるより安くておいしいものが食べれる。)
- ・112号線で車が止まると、帰ってくるのに時間がかかるためインフラ整備必要。
- ・駅前のバスも人が乗っていない状況のため、バスの魅力を知っていただくような仕組みが必要。(バスも乗れば楽しいのにPRしきれてない。)
- ・鶴岡市には家が点在しているため移動手段に車が必要だが、高齢の方の免許をどう補っ

ていけるか行政でもう一步ステップアップしてほしい。

- ・再開発について、以前街中に映画館ができたりしていたが、鶴岡はいろんなところでいろんな施設が建ってるが、あまりにも分散しているため、全体的に施設をうまく活用できてない。

【委員補足】

- ・富山の例はコンパクトシティプラス、富山の中心部に富山市民プラザとか建物があり、私も設計者の1人として関わったが、富山市は非常に都市ポリシーがはっきりしている。鶴岡市も都市ポリシーがはっきりしており、雪の深さ等も似ている。
- ・高さ制限がまちづくりの障害になっているということだが、私は高さ制限があってもまちづくりできるんじゃないかなといった意見も持っており、いろんな意見を交換したほうがいいと思っている。
- ・鶴岡の良いもの（食べ物に代表されるもの）の発信がうまくされていない。
- ・バスは努力はしてるけども、もうワンステップいけないか
- ・再開発をやって、小さく、ポツポツと町中にあるけれども、それが上手く結びついてないのではないか。（都市づくりの課題）

【委員】

<昨年10月からの市内循環バスの改変ポイント>

- ・市内循環バスについて、従来は長さが9m、60人乗りが主流だったが、今は小さい12人乗りの通勤バスを導入して運行。

<改変までの経過>

- ・令和2年度から鶴岡市の地域振興課と共同で、鶴岡市にある公共交通計画に則った路線改編を検討。
- ・現状では居住地から商業施設などの移動手段としては使いづらいのではないかと考え、市内循環バスのターゲットを65歳以上の高齢者に設定。
- ・路線バスの市民アンケートを実施したところ、移動のニーズに即してないという結果。（時間が合わない、運賃がわからない）
- ・市内循環路線というのは、従来1日3本のみ月曜日から金曜日まで、土日は休み。固定客は利用するが、利用客が増えない。（使いづらい、本数がない、生活に合わない）
- ・鶴岡市の資料等を確認したところ、令和元年度では、65歳以上34%、山形県では33%、全国28%、鶴岡は特に高齢化が進んでいる。
- ・65歳以上の高齢者の一人暮らしの方を重点的にバスの路線を再引き直そうというのが、今回の路線再編の仕組み。（1~6学区までの65歳の高齢者世帯の非常に多い、65歳以上の1人暮らしが50%）
- ・これまで南ショッピングセンター「東側」と観光物産館「西側」の路線はあったが、小真木原地区「南側」は交通空白地帯となっていた。

- ・住民説明会や区長会等で聞き取りしたところ、稲生住宅等高齢者の方々がいるところは、買い物に行きたくてもコープ青柳までも行けないというような実態だったため、青柳地区、4小学区に新たに路線を引き、今は三つ葉のような形で路線を設定。
- ・今までは、幹線と言われるところにバス停を置いて、バス停まで家から移動してきたが、高齢者はバス停まで行くのが難しいため、居住地に近いところを走ることが必要となった。
- ・幹線から外れた道路は狭く9mの大型バスでは入っていけないため、バスを小型化。
(車はトヨタのIS コミューターという介護施設でも入れているような車で、バス車両の規格で一番座席数が多いものにし、ワンマン機器・ICカード・押しボタンを付けたりと改造)
- ・1回の乗車が300円均一だと往復で600円となるため、庄内交通では500円で市内循環だと1日乗り放題とした。

【委員補足】

- ・富山の交通手段はものすごくデザインを重視し、非常に目立っており、モダンデザインでいくつか賞を受けたりしている。可能だったら介護バスのイメージを変えてほしい。

【委員】

- ・私も高校の時にバス利用していたが、特に冬場は時間通りバスが来ないとか値段のことも気になった。特に観光客のような普段バスに乗り慣れてない人はバスに乗ることに躊躇すると思われる。
- ・スマホを持っていればバスが走っている位置を見れたり、バス停という概念をなくしてどこにいてもバスに乗れるという仕組みもよいと思う。
(昔のように大きなバスでないで、ちょっと路肩によって止まってもらうイメージ)

【委員】

- ・計画に盛り込むものとしては5年前の計画と現在で大きく変わったものの検討が必要。
気候変動についていえば、グリーンインフラや地下水マネジメント。
- ・富山の都市計画と言えば、コンパクトシティかLRTといわれるように、「鶴岡の町といえば〇〇」といった枕詞のように必要なものがきちんと出てくると強い。
- ・KPIは鶴岡らしさをはかる指標値でいいと思うが、KPIの設定が良かったのか、達成されたところもされなかったところも、全部見直してみるのもよいのではないか。
- ・交通機関等の利用方法で都市の形が変わってくる。経済活動において例えば新しい建物として入ってこないときに、建物を高くするべきか低くするべきかを考えたときに、鶴岡は、地域が広いので各地域の基盤整備を考えていくと、交通の話でもうまく繋がるのではないか。
- ・地域拠点まで行きたい人もいれば、中心市街地まで行きたいって人もいるので各地域の

拠点がしっかりなっていくことが鶴岡らしさかもしれない。

【委員】

- ・ 中心市街地になかなか人が集まらず、駅前も寂しい。
- ・ 5.6年前に中心市街地で小売店ができる物件を探していたところ、空き店舗はあるが駐車場がないため借りれなかった。また、銀座通りや昭和通り、駅前には空きテナントあるが、足を運ぶ人が少ないところも多いため、テナントの入居者が各自で借りれるような共同駐車場や空き地があれば、状況が変わるのではと思う。
- ・ 中心市街地に空き家や空きテナントはあるが、賃貸では出していないところばかりのためもったいない。(空き家バンクはあるが、賃貸で借りられる空き家は街中にほぼない。数百万円以上の分譲のがほとんどでハードルが高かった。)

【委員】

- ・ 市民も自分の身の回りの問題や自分の地域で何が起きているか知らないと思うので、学び合いの場があれば、自分の地域のことを考えるきっかけになると思う。
- ・ 現在は気候変動、ウクライナ戦争、地震など5年前には有り得ないことが起こる世の中になっている。南海トラフ等、都心で大地震が起きたときに、地方も大きな影響を受けると思うので、何があっても鶴岡が自立した仕組みや危機を乗り越えていけるようなシステム・仕組みが必要。

【委員】

- ・ 昭和通りや駅前でも民間への違法駐車が見受けられる。駐車場もあると繁華街でももう少し人が増えてくるのかなと思う。

【委員】

- ・ 温海の7号線沿いは家の前がバス停になるほど便利だが、実家で親が住んでいるところは、やはりバス停までの距離があるため、先ほど原田委員がお話していたスマホを利用してバスの運行状況がわかるような仕組みが良いと感じた。
- ・ 私が子供の頃銀座通りはにぎやかで人も車もたくさんいたが、現在はシャッター街になっている。駅前も同じだが、若者が起業して店舗をやりたいときに、駐車場・店舗の整備・できれば借りられる方の住まいも整備できたらいいのではと思った。
- ・ 下水道について、デスポーザーを設置することによって、燃えるごみの収集が少なくなったり、下水も浄化されてよいのではないか。

【委員】

- ・ 中心市街地で数年前は歯抜け状態に点在していた空き家が、今では周辺に広がり面的な空き家区域になってきているため、空き家1戸1戸の点としての解消ではなく面的な解消を実現できるような考え方にシフトしていかなければならない。
- ・ 中心市街地で通り抜け可能な道路ができるのは理想だが、空き家の増加とともに行き止まり道路を作らざるをえない。最近建設部との話し合いにより、地域限定・条件つきで行止まり道路の築造が認められるようになり、面的空き家解消に向けた第一歩であると

感じている。

- ・ 中心市街地以外の合併前町村地域の空き家件数も増加しているが、中心市街地に比べて、購入需要が少ないうえに、農地付き空き家の売買が可能になったものの、条件に合致しなければ断念せざるをえないケースが見受けられるため、旧町村の魅力発信にも今まで以上に力を入れる必要がある。

【委員】

- ・ 鶴岡市は観光地が点在しており、羽黒山から加茂水族館を見ようとする移動時間がかかるため、鶴岡ではここここでも半日又は1日滞在して楽しめるよとか、複数の観光地に滞在できる滞在プランをつくるといった発想もよいと思う。
- ・ 家族は休みの日にイオンとか1日回れるところに行くが、複合ショッピングセンターに商店街が対抗するのは難しいため、「観光資源を生かして羽黒に上って食事をする」とか「観光地として宿泊を前提として今日はこっちを回る、次来たときはあっちを回る」といった選択肢を増やすと観光地としての鶴岡らしい魅力が出てくるのではないか。
- ・ 市役所の、市民課の待合場所のWi-Fi電波がとどきづらい。第二合同庁舎もWi-Fiつながらないため要望した。
- ・ 中心地に人を住ませるといった発想もよいが、もう一つは市街地に人を寄せるという発想もそのKPIの指標に加えるということもいいのではないか。